氏　　名	焦　逓進
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第４７９号
学位授与年月日	平成２９年６月７日
審査委員	主査　教授　　並河　　徹
	副査　教授　　川内　秀之
	副査　教授　　熊倉　俊一

論文審査の結果の要旨

好酸球性食道炎（EoE）は食道粘膜上皮への好酸球浸潤を病理学的特徴とする慢性アレルギー疾患であり、近年、本邦においても報告例が増加している。欧米のガイドラインでは食道好酸球浸潤例のうち、酸分泌抑制薬であるプロトンポンプ阻害薬（PPI）の無効例をEoEと定義しており、PPI有効例は、PPI反応性食道好酸球浸潤（PPI-REE）として区別されるが、2つの病態の相違について日本人を対象とした検討はない。申請者らは、EoE、PPI-REE、および逆流性食道炎の臨床的特徴の相違点を明らかにすることを目的として本検討を行った。

2005年から2015年の間に島根大学医学部附属病院で診断されたEoE11例、PPI-REE16例を対象とした。また、鑑別疾患として重要である逆流性食道炎症例39例を対照群とした。診療録から、症状、アレルギー疾患の合併、血液検査所見、内視鏡所見、組織学的所見のデータを抽出し、各群間で比較検討した。年齢・男女比、臨床症状についてEoE群とPPI-REE群で差は認められなかったが、アレルギー疾患の合併については、EoE群で他群に比して、喘息および食事アレルギーの合併率が有意に高かった。また、血清IgE値もEoE群で有意に高値であった。内視鏡所見、組織学的所見についてはEoE群とPPI-REE群で有意な差は認められなかった。これらの結果から、EoE群とPPI-REE群の臨床的特徴では顕著な相違はないものの、EoE群でアレルギーの関与が強い傾向があることが明らかとなった。本研究は、日本人における食道好酸球浸潤の臨床像について新たな知見を示したものであり、臨床的に有用な成果と考えられる。